

公表 事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	児童発達支援センター おひさま		
○保護者評価実施期間	2024年12月16日 ~ 2024年12月27日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59名	(回答者数) 31名
○従事者評価実施期間	2024年12月16日 ~ 2024年12月23日		
○従事者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月18日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間がバリアフリー化され、子どもに分かりやすく構造化された環境になっている。	・教室ごとに子どもに合わせて環境を変えている。 ・パーテーションを利用して活動ごとに仕切り、環境調整をしている。	・個々に合わせた環境作りをしていく。
2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置が適切である。	・多職種のスタッフを配置している。 ・その日の利用者や状態に応じてスタッフの配置や人数を調整している。	・子どもにとって刺激にならないよう、スタッフの人数調整をしていく。
3	活動プログラムが固定化しないように工夫している。	・ミーティングを教室前に行い、子どもの発達状況やその日の様子に合わせた支援ができるようにしている。	・同じ活動でも、子どもの様子を見て変化を持たせていく。 ・引き続き、教室前後のミーティングを密にしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫必要な点等
1	第三者による外部評価が実施できていない。	・外部評価の仕方や評価先が分からなかった。	・社会福祉協議会など市の機関に問い合わせ、外部評価を実施する。
2	保育所や認定子ども園、幼稚園等地域の中で他の子どもと活動する機会がない。	・環境の変化に弱い子どもが利用しているため。	・法人内保育園との交流を持つ場を少人数の実施から始める。
3			